

# 付 注

---

## 付注 1 潜在成長率の推計

- ① ここでは、潜在成長率を生産関数アプローチにより推計した。

生産関数は、以下のコブ・ダグラス型を仮定した。

$$Y = (1 - \alpha)K + \alpha L + TFP$$

ここで、Y は実質 GDP、K は資本投入量、L は労働投入量、TFP は全要素生産性を表す（いずれも対数表示）。また、定数  $\alpha$  は労働分配率、 $1-\alpha$  は資本分配率を表す。

潜在資本投入量（ $K^*$ ）及び潜在労働投入量（ $L^*$ ）については、それぞれ推計期間の「平均的」な投入水準を潜在投入量と仮定した。

また、全要素生産性は、HP フィルターにより各期の変動を抑制した水準（ $TFP^*$ ）を用いた。

$$Y^* = (1 - \alpha)K^* + \alpha L^* + TFP^*$$

- ② 我が国の潜在成長率は、以下に示す方法により推計した。

潜在資本投入量は、資本ストック×平均稼働率により推計を行う。推計にあたり、製造業及び非製造業のそれぞれについて、資本ストックと平均稼働率を求めた。

資本ストックについては、製造業、非製造業のいずれも最新年度の 2012 年までの実績値を取得したうえで、2014 年まで延長推計した。

将来予測については、直近 10 年の資本ストック変化率と同等の変化率を仮定した。

資本稼働率は、計測期間の最大値を 100 として指数化したうえで、その期間平均値を用いた。

なお、製造業の資本稼働率については、日銀短観の設備判断 DI を用いて、近年見られる下方バイアスの補正を行った。

潜在労働投入量は、年齢別の人口×平均稼働率とした。平均稼働率は、労働力率×就業率×1人当たり総労働時間とした。

労働力率については、HP フィルターを用いて平準化を行った。将来予測値では、期間中のトレンドが継続した場合の数値を用いた。

就業率、1人当たり労働時間及び労働分配率については、景気循環による変動を防ぐことを目的に、期間平均値を用いた。

労働分配率の定義は以下に従っている。

$$\text{労働分配率} = \text{雇用者報酬} / (\text{雇用者報酬} + \text{営業余剰} + \text{固定資本減耗} - \text{家計の営業余剰})$$

推計に用いたデータの出所は以下のとおり。

実質 GDP、名目 GDP、雇用者報酬、営業余剰、固定資本減耗等	: 内閣府「国民経済計算」
資本ストック	: 経済産業研究所「JIP データベース」
稼働率（製造業）	: 経済産業省「鉱工業指数」、日銀「短観（設備判断 DI）」
稼働率（非製造業）	: 財務省「景気予測調査（設備判断 BSI）」
15 歳以上人口（実績値）	: United Nations “World Population Prospects”
15 歳以上人口（予測値）	: 国立社会保障・人口問題研究所「年齢別将来人口」
労働力率	: 総務省「労働力調査」
就業率	: 総務省「労働力調査」
1 人当たり労働時間	: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

③ アメリカ、ドイツの潜在成長率についても上記の推計方法に準じている。

ただし、資本ストックと資本稼働率については、全産業ベースでの数値である。

なお、資本ストックは、我が国の推計に用いた JIP データベースと同様に、資本の減耗を反映したものをを用いている。

労働分配率及び資本分配率は、それぞれ OECD より取得した数値を用いている。

推計に用いたデータの出所はそれぞれ以下のとおり。

実質 GDP	: Economic Research, Federal Bank of St. Louis
資本ストック	: Penn World Table 8.1
稼働率	: Economic Research, Federal Bank of St. Louis、Eurostat
15 歳以上人口（実績値）	: United Nations “World Population Prospects”
15 歳以上人口（予測値）	: United Nations “World Population Prospects”
労働力率（実績値）	: ILO Stats “Labour force participation rate by sex”
労働力率（予測値）	: ILO Stats “Labour force participation rate by sex, age and type of scenario (ILO estimates and projections)”
就業率	: ILO Stats “Employment by sex and age”
1 人当たり労働時間	: OECD “Average annual hours actually worked per worker”
労働分配率	: OECD “Labour Income Share”